

愛媛大学教育・学生支援機構

竹中喜一

学習成果の評価の現在

大学において、学習成果という用語を日常的に用いるようになった。2008年の中央教育審議会答申で、学習成果という用語が出た以降、大学教育再生加速プログラムや私立大学等改革総合支援事業のようない政策の後押しもあってきた。2020年のり、学習成果の評価に向

ために構成員が共通してもつ考え方や使用する尺度」と定義されている。

日本私立大学協会の調査では、2016年時点で同協会加盟校の4割強の大学が、アセスメント

には、学納金を納める学生あるいはその保護者、高校生などの入学候補者、企業や自治体、国などさまざまなステークホルダーがいる。認証評価

には、学納金を納める学生あるいはその保護者の目にもわかりやすい形で、学習成果が示されなければならない。そのために、KPI (Key Performance Indicators) とよばれる重要な

指標を定める大学もある。本質的には、学習成果を評価する目的は教育・学習活動の改善にすぎない。しかし、教育・学習活動の改善を行うためには、

学習成果を測っている点に着目したい。これら3つの時点で評価する意義の1つは、学習成果の経年変化を確認できることにある。卒業時の能力が

身につく過程を把握することができるといえる。もう一つ、在学中の学習の改善に活用できる点も大きな意義である。特に、学生本人に学習成果の状況を提示することにより、学生が自身の能力の強みや弱みを把握できる。教職

上表からわかるように、アセスメントプランの精緻化させるためには、評価の対象、時期、指標に限らず、学習成果の評価結果の活用方法などの詳細まで示すといえる。いくつかの大学では、アセスメントプランの詳細を示すための工夫を施している。ここでは、代表的な例を紹介したい。

もともと学習成果の評価にかかるとは、カリキュラム・ポリシーに含めることが文部科学省のガイドラインで示されている。最近ではより具体的にアセスメントポリシーまたはアセスメントプランの必要性も、答申などで提言されてきた。2020年のアセスメントプランは「学習成果を評価する

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン

は、アセスメントプラン



竹中喜一氏

アセスメントプランを実質的に機能させるための視点

〈上〉

機能させるための視点

トプランに含めるべき要素を示しながら、アセスメントプランを実質的に機能させるための視点について考察する。

2つの目的によって、評価で重視されるべき点は異なる。教育・学習活動の改善を目的とするのであれば学習のプロセスを視野に入れて策定されるべきといえる。

典型的な枠組み

上表は、多くの大学で公開されているアセスメントプランの典型的な枠組みである。

直接的な評価方法に

直接的な評価方法に

直接的な評価方法に

直接的な評価方法に

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

間接評価と間接評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

量的評価と質的評価

実施の責任主体

実施の責任主体

実施の責任主体

実施の責任主体

実施の責任主体

実施の責任主体

実施の責任主体

実施の責任主体

達成すべき情報

達成すべき情報

達成すべき情報

達成すべき情報

達成すべき情報

達成すべき情報

達成すべき情報

達成すべき情報

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

到達すべき水準

Table with 3 columns: 入学時, 在学中, 卒業時. Rows: 機関レベル, 教育課程レベル, 科目レベル. Each cell contains examples of assessment items.

注: 指標は例であり、すべてを含むことが典型的というわけではない。

到達すべき水準